



すゝめ

患者さんと慶應義塾大学病院をつなぐ
コミュニケーションマガジン

K E I O
UNIVERSITY
HOSPITAL
.....
Communication
Magazine

Vol. 07
February 2019

ご自由に
お持ちください

患者さんの負担軽減を目指して

放射線診断科は、負担の少ない画像検査で病気を早期に発見すること、画像をガイドに負担の少ない手法で病気を治療することを目指しています。現場では放射線科医、診療放射線技師、看護師がチームとして連携し、患者さんに優しい医療を提供しています。



2018年、慶應看護は
開設100年を迎えました

広報誌タイトル「すゝめ」とは

タイトルは明治5年から9年にわたって出版された17編を数える
福澤諭吉の大ベストセラー『学問のすゝめ』に因んでいます。

効率的な画像検査と 精度の高い画像診断の提供 ～病院全体の質の向上に貢献する～

放射線診断科には、大きく二つの仕事があります。一つは、X線・超音波・CT・MRI・PETなどの画像検査に関して、負担が少なく効率の良い検査を組み立て、病気の早期発見を目指すことです。もう一つは、X線やCTなどの画像をガイドとした治療（IVR）です。これは、カテーテルなどを体内に挿入し、臓器の機能を温存しながら、患者さんの負担を少なく

して完治を目指す手法です。2月4日にIVR部門（血管造影センター）が1号館へ移転し、より充実した環境が整いました。ちなみに、がんへの放射線照射は、放射線治療科が担当しています。画像検査・IVRの現場では、放射線診断医、診療放射線技師、看護師がチームとして患者さんに寄り添い、安心、安全な医療を提供しています。



放射線診断科 医師
じんざき まさひろ
陣崎 雅弘

画像検査の 最適化を目指して

放射線診断医は、①効率のよい最適な画像検査の組み立てを主治医に

提案し、②患者さんの病態に合わせた最適な撮影法の指示を出し、③検査の安全を監督し、④撮影された画像に対する病気の診断（読影）を行っております。

画像診断を通して 全診療科をサポート

放射線診断医の最も大きな役割の一つは、撮影された画像に対して病気の診断（読影）を行うことです。ほぼ全ての診療科の画像診断をするため、がん、感染症、血管病変（動脈硬化）、変性疾患、遺伝性疾患、自己免疫疾患などあらゆる疾患を対象に、全身を診ていることとなります。良い治療には、正しい診断が不可欠であり、判断の難しい症例では、カンファレンスで主治医と治療方針を検討しています。患者さんと直接接することは少ないですが、私たちは読影を通して治療方針の決定に大きく関わっているのです。当院の放射線診断医は高い読影能力をもち、さらに当科は全領域に対応できる診療体制を整えています。画像診断を通してあらゆる診療科をサポートし、「病院全体の質の向上に貢献する」ことがモットーです。

精度の高い画像診断を行うには、最適な画像検査が必要です。画像診断は他の医療分野と比べて進歩が早い領域です。例えばCTやMRIはこの15年で、2次元の横断像から3次元の立体像へ、そして時間軸が加わった4次元での動態評価も可能になりました。更に、この間にも放射線被ばくの低減、撮影の高速化など多くの新技術が登場しました。そのため、これらの進歩に応じた最適な画像検査を組み立てていくことはとても重要になります。私たちは常に最先端の機器や検査法を取り入れ、患者さんの負担の軽減に努めています。例えば、入院が必要な画像検査を外来で行える検査に置き換える、数種類を組み合わせて行っていた検査を、情報量の多い画像検査を導入し一つにまとめる、高速撮影による検査時間の短縮、被ばく低減への積極的な取り組みなどを実践してきました。また、このような最新技術の開発にも、企業と連携しながら積極的に取り組んでいます。



診療科連携による 低侵襲治療を 実現しています

画像を見ながら行う低侵襲治療、 それが画像下治療（IVR）です

画像下治療（IVR…インターベンショナルラジオロジー）は進歩の著しい低侵襲治療の一翼を担っています。

IVRとは、画像診断に用いられる超音波装置、CT、放射線透視・撮影装置を用いて、瞬時に画像解釈しながらカテーテルまたは細い針を治療部位に進めて行う身体に優しい治療です。本年2月4日血管造影室が移転、開設いたしました。最新の画像診断装置と習熟したスタッフのもと、放射線診断科、循環器内科、脳神経外科、一般・消化器外科血管班、小児科など多くの診療科がお

互いに協力しあいながら、あらゆるIVRが実施できる体制が整えられています。

慶應病院の特徴は、各診療科が個々に高いレベルの診療を行えることに加えて、診療科間の連携が良いことです。一つの診療科が自身の経験だけで判断をするのではなく、常に診療科内外の専門家の助言に耳を傾け、協力しあいながら最適な診療を行います。必要な時に他科の医師に気軽に相談できる「コンサルトの文化」、診療科の垣根を越えた「優れた専門医による診療」、その二つが慶應病院の



多目的装置 (IVR-CTシステム)



脳血管領域

心疾患領域

診療の真髄です。血管造影センターはその重要なパートを担っています。

脳血管の分野では、脳梗塞、脳動脈瘤・動静脈瘻、頸動脈狭窄などのカテーテル治療が行われています。新規血管造影装置の導入により、急速に広まってきたいる血栓回収療法、最新デバイスによる最先端の脳動脈瘤治療も迅速かつ的確に行うことができます。

心疾患に目を向けると、不整脈の原因となる刺激伝導路異常に対する焼灼治療、狭心症・心筋梗塞に対するバルーン、ステント治療はもろろん、近年進歩が著しい心臓弁膜症、心房中隔欠損症、閉塞性肥大型心筋症や慢性肺血栓塞栓症に対するカテーテル治療にも積極的に取り組んでいます。いずれも日本をリードする症例数と成績を収めています。

足の動脈が動脈硬化症などで狭くなり血液の流れが悪くなる末梢動脈疾患も、低侵襲のカテーテル治療が積極的にに行われており、血管の専門医により総合的でバランスの良い治療介入が可能となっています。脾臓や腎臓、様々な部位の末梢血管の動脈瘤も画



像下に繊細なカテーテル治療を行っており、国内の指導的立場にあります。

肝臓がんや喉頭がんなどの悪性疾患に対するIVR治療も、やはり優れた技術をもつ専門医により実施されます。複数診療科による合同カンファレンスで、患者さん個々の病状を検討し、IVR治療が最適と判断された場合に、いかなるIVRも提供できる体制を維持している当院は、国内有数の医療機関です。

血管造影センターでは、全ての分野において、最高レベルの診療を患者さんが安心して受けられる体制を整えています。



今後の課題と取り組み

入院のお食事・栄養相談

入院中のお食事は、日本人の食事摂取基準2015年版（厚生労働省）に基づき、常食では、塩分を1日8g未満に抑えています。梅干1個（10g）の塩分が約2gに相当しますので、塩分の少ないお食事ですが、薄味でも美味しく召し上がっていただけるよう、献立作成や調理で工夫をしています。

患者満足度調査では、「温かいものは温かく、冷たいものは冷たくて配慮されている」というご意見をいただき、再加熱カート（温冷配膳車）の導入が評価を得ておりました。

満足していただける食事が提供できるよう、患者さんのニーズを把握しながら、食事内容の改善に取り組んで参ります。

院内の待ち時間

外来部分では特に「待ち時間」の解消が大きな課題となっており、受付をクラスター別にブロック化するなど、きめ細かい対応を目指しました。中でも「薬のお渡し」では、「お薬の少ない患者さん用」と「お薬の多い患者さん用」に受け取り窓口を二つに分けたレーン制を導入したことが、患者さんの待ち時間の短縮につながりました。これらの取り組みにより、患者さん満足度の「待ち時間」に関連する項目に改善傾向が見られましたが、まだまだ課題として認識しております。新病院棟（1号館）の開院に伴い、今回のアンケートでは設備や環境が改善されたとの評価もいただいておりますが、今後も引き続き、ご指摘いただきました事項について、継続して改善できるよう努めて参ります。



患者さんの様々なご相談をお受けしています

栄養相談室

開設時間：9：00～16：30（月～金）
9：00～15：30（土）
場 所：1号棟2階（メモリークリニック横）

- 予約制（医師のオーダーが必要です）
- 相談費がかかります
- 患者さんの病態やライフスタイルに合わせて、管理栄養士による個別の相談を行っています。

おくすり相談（お薬お渡し窓口）

開設時間：8：40～19：00（休診日を除く）
場 所：正面玄関左横

- お薬受取の際ご相談ください。
 - ・受取時のご要望（ホチキス留めをやめて欲しい、など）
 - ・妊婦、授乳婦のお薬のご相談（回答は別日になります）
- ※「お薬相談室」は不定期のご案内となります。

がん相談支援センター

開設時間：9：00～17：00（平日）
場 所：2号館1階（エスカレーター横）

- 電話相談：03-5363-3285（直通）
- 対面相談（予約が必要です）
※ご相談の目安は30分/1回です
- 対象者：当院のがん患者さん・ご家族、地域にお住まいの方々、地域の医療機関
- ・がんになると、医療・療養・生活面等で様々な疑問、悩み、不安が生じてきます。がん専門相談員専任スタッフが皆様のお話を伺い、さまざまな情報を提供し、解決に向けての道筋を共に考えていきます。

患者総合相談窓口

開設時間：8：40～16：30（休診日を除く）
場 所：正面玄関右横にあります。

- 予約は不要です
- 迷ったり、悩んだり、分らなったり、困ったときにご相談ください。また病院へのご意見・ご要望もお寄せください。

患者さんにとってよりよい病院を目指して

みなさまからの評価やお声を活かして、病院運営の改善を推進していきます

2018年度患者さん満足度調査結果より

当院では、2015年度から毎年外来患者さんと入院患者さんを対象にアンケート調査を行っております。2018年度も多くの貴重なご意見を頂戴することができました。ご協力いただいたみなさまには、御礼申し上げます。

2015年度・2018年度の調査結果を比較し、当院が改善に向けて取り組んできたことをご紹介します。調査の概要については院内各所に提示しておりますので、是非ご覧ください。

外来の改善に取り組んできたこと

採血待合室の環境に対する取り組み

- *採血エリア“中待ち”“外待ち”エリアを明確化
 - *採血整理番号順にエリア移動をスムーズ化
 - *待合いスペースと椅子の増設
 - *採血ブースの増設と、採血台の増設
- 「待ち時間が減った」「流れがスムーズになった」というお声を多くいただくようになりました。

受付に対する取り組み

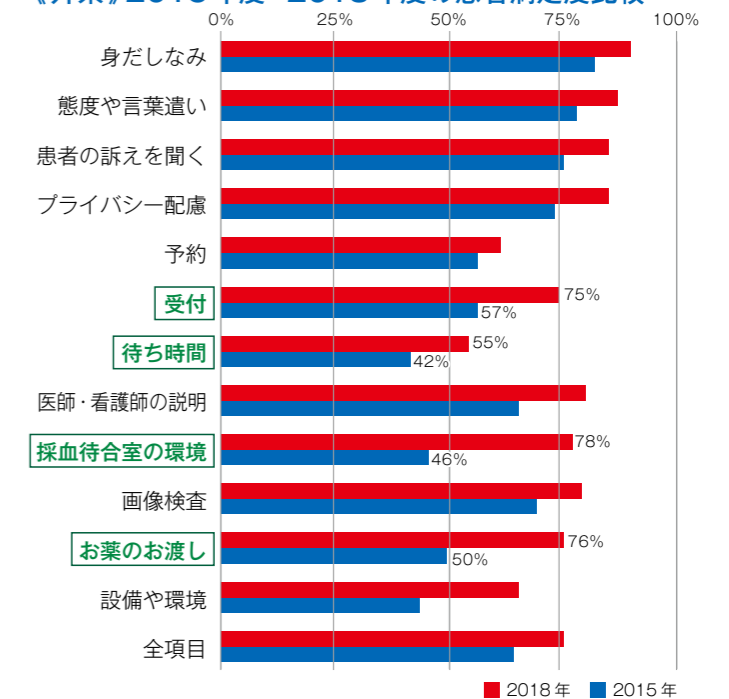
- *ブロック受付導入による受付対応の充実
- *クラスター医療の推進
- *待合いスペースと椅子の増設
- *15分前受付による待ち時間の自由度を確保
- *外来待ち状況照会機によるメール案内
- *番号呼出しによるプライバシーの保護
- *診療費後払いシステムの運用開始

お薬のお渡しに対する取り組み

- *レーン制の導入
 - *薬剤部の中の動線を見直し待ち時間を短縮
 - *よりきめ細かな服薬指導
- お薬の待ち時間については、当院で計測したデータ結果からも短縮されていることが実証されています。

※クラスター医療：からだの部位別や治療目的別などで、すべての職種が協力し質の高いチーム医療を展開すること。

《外来》2015年度・2018年度の患者満足度比較



3号館（南棟）リニューアルオープン

静かな療養環境で高いホスピタリティと
先進医療を推進する3号館（南棟）が再稼働



5・6階 病棟〈全室個室〉

周囲には新宿御苑、明治神宮外苑などの緑に囲まれた環境のもと、5階（31室）、6階（27室）の全病室が個室を配置し、医療連携推進部と病棟スタッフ、コンシェルジュが入院予約から退院まで一貫し、きめ細かな安心できる医療サービスを提供します。



4階 眼科外来、 歯科・口腔外科外来

眼科は2号館2階から、歯科・口腔外科は2号館3階から移転し、診察室や検査室などを一新。新国立競技場側の窓に配置した待合スペースは「明るい雰囲気になった」と好評をいただいています。



2012年8月に開設した3号館（南棟）は、“静かな環境での療養”と“ワンランク上の医療サービスの提供”
2018年11月より、4階に「眼科（4W）」、「歯科・口腔外科（4X）」が移転しました。その移転工事のため

をコンセプトに、ゆったりと治療を受けられる落ち着いた環境を整えてきました。
閉鎖していた5階・6階の病棟が再開しました。

1号館 移転・オープンのご案内

今後もさまざまな移転・移動やリニューアルオープンを予定しております。適宜お知らせやご案内をいたしますが、ご不明な点はお気軽に病院スタッフへお声がけください。

●2019年2月4日（月）オープン

- 1号館連絡通路 1階部分 ※写真右
- 1号館3階 3C受付 <検査（筋電図・脳波・肺機能・神経機能・血管）/臨床遺伝学センター>
- 1号館4階 4E受付 <血管造影室>

●2019年2月中にオープン予定

- 1号館2階 待合
- 1号館4階 ICU待合
- 1号館5階 手術待合
- 1号館6階 待合



1階 ラウンジ

落ち着いた空間でお過ごしいただけます。



3号館 外観



正確な画像情報の提供を目指しています

「レントゲンを撮りましょう」といわれ、胸部などのX線撮影を受けたことがあると思います。日本ではお馴染みの「レントゲン」は、実はX線を発見した博士のお名前です。博士が人類で初めてX線写真を撮影し、放射線研究が始まりました。人体を解剖せずに体内の情報が得られる画像診断は、医学の飛躍的な進歩に貢献してきました。当院ではX線による単純撮影やマンモグラフィ、消化管造影、骨塩定量、CTをはじめ、超音波、磁気を利用したMRI、放射性同位元素を用いたPET・SPECTと様々な画像検査を担当しています。私たち診療放射線技師は、これら画像検査の専門技術者として画像診断を支えています。

放射線は診断だけではなく、治療にも役立てられています。放射線治療は外科手術、化学療法とともに、がん治療の三本柱です。放射線技師は治療時の照射に加えて、治療方針や計画の確認、照射方法の検討などでも活躍しています。安全を確保し、患者さんに正確な治療を提供するために、機器の精度管理も重要な仕事です。

慶應病院は大学病院として、様々な機能や役割を果たしています。当院での先進的な取り組みにもチームとして放射線技師は参加しています。チーム医療へ貢献するために、私たちは検査や治療だけでなく、医療人の育成にも努めています。例えば最新の医療についての学習や、研究、学会活動、専門認定資格の取得などを奨励しスキルアップを促しています。また、患者さんに検査や治療に安心して臨んでいただくためには、患者さんが内容を理解し、ご納得いただく事が重要と考え、コミュニケーション能力や接遇についても研鑽しています。

当院では多くの患者さんが画像検査を受けておられます。患者さんの症状を医師が的確に把握できるように、私たち放射線技師は放射線診断科医と協働し、検査の特徴を活かした正確な画像情報の提供を目指しています。患者さんからのメッセージが、私たちの励みになり、成長につながります。お気づきの点がありましたらいつでもご指摘ください。今後もより一層安心で安全な医療を提供できるよう努力してまいります。



医師がお薬を処方してから患者さんにお渡しするまで、調剤室ではどのようなことが行われているかご存知でしょうか。実は、患者さんの目の届かないところで多くの薬剤師が関わり、時には医師と議論をしながらお薬が準備されています。薬剤部に処方せんが届くと、まず薬剤師により処方内容のチェックが始まります。年齢や体重、血液検査の結果などをもとに一人ひとりに合わせた投与量を検討し、服用方法が適切か、お薬の飲み合わせに問題がないかなどを確認していきます。処方内容に問題がないことを確認した後は、お薬の取り間違いを防ぐため、お薬のシートやラベルに印刷されているバーコードを専用の機械で読み取りながらお薬を準備していきます。お薬の準備が一通り終わったら、再度、別の薬剤師が処方せんの内容や準備されたお薬に間違いがないことを確認します。最後に、お薬の渡し間違いを防ぐため、外来の薬剤部窓口では患者さんご自身にお名前を名乗っていただき、お薬をお渡ししています。特に

注意が必要なお薬や使い方がわかりにくいお薬については、薬剤師より患者さんにお声がけをして説明しています。入院中のお薬は薬剤師が患者さんごとに処方歴を管理して、効果や副作用、飲み合わせなどをチェックしていきます。また、ベッドサイドへ出向いてお薬についての説明を行い、ご不安なことなどをお伺いして少しでも安心してお薬をお使いいただけるよう努めています。私たちは患者さんに安心してお薬をご使用いただきたいという思いを胸に、一人ひとりの患者さんに合わせてお薬をご用意しています。もしわからないことやご不安なことがありましたら、ぜひ薬剤師に声をかけていただきたいと思います。これからも医師や看護師などの医療スタッフと連携し、患者さんに信頼される質の高い、安全で安心な医療を提供できるように、薬剤師一同努めてまいります。



安心してお薬をご使用いただくために



薬剤師



Information

2019年4月30日(火)・5月1日(水)・5月2日(木)は診療を行います。

2019年のゴールデンウィークは、「天皇の即位の日」と「国民の祝日」に挟まれる日が休日となりますが、慶應病院では、4月30日(火)、5月1日(水)、5月2日(木)を診療日といたします。

患者サロン開催予定

患者さんご家族、ご友人を対象としたセミナー・交流会を定期的に開催しています。どなたでもご参加いただけます。(参加費・無料)

日程	テーマ	形式	時間
3月5日(火)	がん薬物治療中のスキンケア ～(頭皮や爪含む)を守りましょう～	講義+交流会	午後2時00分～午後3時30分
5月29日(水)	がん患者さん・家族の心のケア ～マインドフルネスを活かす～	講義+交流会	午後2時30分～午後4時00分

■ 開催場所: 3号館南棟1階 ラウンジ ■ お申し込み・お問い合わせ: がん相談支援センター 03-5363-3285 (直通)

アレルギーセンターの開設

これまでアレルギー疾患に対しては、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、アレルギー性結膜炎、アレルギー性鼻炎、気管支喘息など数多くの症状に対して、皮膚科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、呼吸器内科、消化器内科など複数の診療科が個別に診療を行ってきました。そのため、複数のアレルギー疾患を合併している患者さんは、それぞれの診療科を受診しなければなりません。また、重症アレルギー疾患を抱えた思春期患児の成人診療科への移行も検討課題となっています。アレルギーセンターは、各診療科の高い専門性を維持しながら、診療科の垣根を越えた連携を行い、患者さんがより質の高い最新のアレルギー診療を受けられることを目標に開設されました。

アレルギーセンター初診のご予約

〈外来予約センター〉電話番号: 03-3353-1257

*ご予約の際には、「アレルギーセンター(診療科名)」とお伝えください。

(診療科名: 皮膚科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、消化器内科、呼吸器内科)

呼吸器内科・消化器内科

好酸球性肉芽腫性血管炎
アレルギー性気管支肺真菌症
好酸球性肺炎
好酸球性食道炎
好酸球性胃腸炎

小児科
(15歳以下)

食物アレルギー
アトピー性皮膚炎

蕁麻疹
接触性皮膚炎

皮膚科

耳鼻咽喉科

アレルギー性鼻炎
好酸球性副鼻腔炎
口腔アレルギー
好酸球性中耳炎
ANCA関連中耳炎

季節性アレルギー性結膜炎
通年性アレルギー性結膜炎
アトピー性角結膜炎
春季カタル
巨大乳頭結膜炎

眼科

外来受診後の料金計算・会計をお待たせしない「エクスプレス会計」



ご相談・ご入会は、受付ブースを設けておりますのでお気軽にお立ち寄りください(2号館1階エスカレーター向かい、1号館1階案内カウンター向かい)

当院では2018年5月よりライフカード(株)と提携し、クレジットカード「KEIO MED EXPRESS CARD」の発行を始めております。外来受診時にこのカードで支払う旨をお伝えいただくことで、診療後の料金計算・会計を待たずに帰宅することができる「エクスプレス会計」がご利用できます。

エクスプレス会計の流れ



※院内でお薬を受け取る方は、お薬の用意ができるまでお待ちいただくことになります。

※診療費はクレジットカードの利用明細情報での確認となります。

※領収証と診療明細書は、受診日の翌日午後以降(時間外・休診日は除く)に会計窓口にて発行可能です。

〈受付時間・休診日〉

外来診療時間 午前8時40分～午後12時00分、午後1時00分～午後4時00分

面会時間 (平日) 午後3時00分～午後7時00分
(土・休日) 午後1時00分～午後7時00分

休診日 日曜日、第1・3土曜日 / 国民の祝日・休日 / 年末年始(12月30日～1月4日) / 慶應義塾の休日(1月10日、4月23日)

〈診療担当医表〉

このQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただくと診療担当医表がご覧になれます。なお病院入り口脇の電子掲示板にも掲載しています。

